

家づくりの学び



自分の足で立って歩む支えに

家づくりの授業は、世界の様々な家についての学びから始まりました。保護者の方々にもご協力いただき、パキスタン出身のお父さんにはいかに涼しく暮らせるかについて、モルドバ出身のお母さんにはいかに家の中を温かく保てるかについて教えていただきました。

家づくりの指導は毎回お世話になっている中村棟梁にお願いしました。まずは地鎮祭からです。神様に山のものと海のもの、それからお酒をお供えして土地を清め、ここに家を建てることのお許しを願いました。そして基礎となる丸石を置く場所を決め、水のパイプを使って水平を出しました。子どもたちは自分たちの頭くらいある大きなハンマーで柱を打ち込み建前もさせてもらいました。また、近くの竹藪から竹を切り出して細かく割って小舞*を作り壁に編み込み、サバ土に藁をすき込んだ土を壁土にして塗りました。子どもたちは初めての道具を使っての作業ばかりでしたが、楽しみながら学んでいました。「忍者屋敷のような家」という子どもたちの案で、ぐるぐる回る回転扉も付きました。

contents

- P1 4年生 家づくり
- P2 5.6年生 植物学
7年生 唐松岳登山
- P3 ミカエル祭に寄せて
保護者インタビュー
- P4 長期休暇学童を利用して
うちのおべんとう
こどもと食べたい
季節のレシピ



豊田市にて資材のヒノキを伐採
木こり・杉野賢治さんの斧



4年生のカリキュラムにはなぜ家づくりがあるのでしょうか。9歳を過ぎると子どもたちはそれまでとは違って、自分と世界が分離してしまったように感じて不安になります。「僕のお父さんとお母さんは本当のお父さんとお母さんなんだろうか」こんなことを思う子どももいるでしょう。そんな子どもたちの気持ちは、蛇に咬かれて知恵の木の実を食べてしまい、楽園を追放されたアダムとエバのようです。彼らは衣食住の全てを自分たちの身体を使って手に入れなければなりません。そんな年頃の子供たちが真っ直ぐな柱を立てて雨露をしのぐ屋根を張り、風や寒さから守ってくれる家を作ることは、これから自分の足でしっかりと大地の上に立って歩いていこうとするための支えになります。

4年生担任 村上 智

*小舞：竹や木を格子状に編む土壁の下地

小舞という優しい壁 ものの見方を変えた授業



卒業生 丹羽 広大

4年生で体験した家づくりの授業。何もなかった空間に柱をたて、その柱と柱を繋ぐ壁をつけ、そこに屋根をかけ、小さくも無限な世界（小さな家の中で、これからどのように過ごし、遊び、楽しむかという選択肢が無限にある世界）を自分たちで生み出せることに感動しました。中村さんの熟練した技は、魔法使いのように見えました。

壁を作る一連の作業の中でも、特に小舞を編むのはとても楽しく印象に残っています。それまで通り抜ける事ができていた柱と柱の間の空間に小舞がかかったとき、向こうが透けて見えるのに通れなくなってしまったことに特別な違和感を覚えました。今思うと、小舞という優しい壁によって繋がっていた内と外の関係性が好きだったのだと思います。内と外を優しく仕切ることによってできる両者の繊細な関係性を、どのような手段で作出すかということは、今の自分のなかで大きなテーマです。その時感じた壁に対する感覚は、自分が和建築に惹かれるきっかけとなりました。

この授業を境に、ものの見方が変わりました。この世界にあるものが人の手によって形作られたものか、自然の力によってできたものかの識別を意識的にするようになりました。また、自分の考えや価値観を取り入れてもらえた体験から、人の手によって作られたものの背景には、それを作った人々の技術や知識、考え方や価値観が含まれているという大切な気づきを得ることができました。

家づくりの授業があったからこそ今の自分の充実した学び多き日々があります。そんな特別な授業を用意してくれた先生方、中村さん、そのほか関わって下さった皆さんに深く感謝しています。

愛知シュタイナー学園1期生。
現在、大工の中村武司さんのもとで見習いとして働いている丹羽広大さんに、ご自身が家づくりの授業を受けた当時の想いを振り返っていただきました。



家づくりの保護者による感想、丹羽広大さんの全文はブログに掲載しています。

Pickup Report
01

5・6年生 植物学 — 菌類から被子植物までの学び —



5・6年生担任 森田 里乃



シュタイナー学校のカリキュラムの特徴に毎朝担任がおこなう「エポック授業」があります。このエポック授業はひとつの教科が始まると、3～4週間毎日同じ教科を集中して学ぶ形式で進みます。“エポック”授業とはよくいったもので、一つのエポック授業が終わるとまさに一つの時代、一つの歴史をクラス全体で作りに上げたような空気に包まれます。

さて、夏休みが明けると5・6年生クラスでは植物学のエポック授業が始まりました。理科学的な学びを行うにあたり、シュタイナーは「常に対象を人間と関係づけておこなうこと」と助言をしています。例えば植物学の場合、人間と植物の似ているところや違うところを探します。そして、キノコ（菌類）を、「大地のお母さんから栄養をもらい、光がなくても生きていける、まるでおっぱいを飲んでまどろんでいる赤ちゃんのようだ」と例え「海藻（藻類）は海の中で常に揺られていて、水から出たらまだ自分で立つことはできない。まるでだっこを喜ぶ少し大きくなった赤ちゃんのようだ」と言うように。その植物の在りようと人間の成長段階を重ね合わせながら学びを進め、今回は被子植物までを学びました。ちなみに被子植物は、「太陽や星の輝きから沢山のことを学び美しい花を咲かせる。まるで学童期の子どもたちのよう」な段階です。

植物学を始める前は、知識や情報の詰め込みにならず、どうしたら子どもたちが生き生きと植物と出会うかを思いめぐらせ準備をしていました。植物学が終わった今、授業を振り返ってみると、子どもたちは私が語るよりもずっと多くのことを目の前の植物の美しさ神秘さから生き生きと学んでいたように思います。そして、身の回りの草木の世話をしている日頃の姿から以前にまして植物に親しみを感じている様子を見てとることができました。

植物の世界にどっぷり浸かった一ヶ月でしたが、今は次のエポック授業の「古代ギリシア」の雰囲気にも包まれている5・6年生教室です。

Pickup Report
02

学びを体感しながら、みんなで目指した山頂

7年生担任 河合 裕規



「夏になったら、どこかみんなでいきたいね。何か思い出に残るようなことしたいよね」「海に行く?」「山に登るとか?」「富士山登りたい!」「僕、登ったことあるー!」

こんなやりとりがあって、7年生は夏休み登山の計画を練りだした。6年生も終わりにさしかかった頃のことだった。

長野のアルプス連峰の中からいくつか候補を出して、決めた唐松岳。「ここどうかな? ゴンドラとリフトで中腹まで行けるし、初心者向けとあるよ」

みんなで山の情報を集め、登山計画を立てる。まず、どうやって山まで行くか? 話し合いで、特急「しなの」に乗ることになった。どこに泊まる? 山小屋でしょ! 一つひとつ計画が具体化していく。



唐松岳 DATA
 山域：北アルプス北部
 都道府県：富山県・長野県
 標高：2,696m
 最高気温：15.5℃(6月～9月)
 最低気温：1.8℃(6月～8月)



目的は「みんなで協力して全員揃って頂上に立つ」に決まった。誰かが途中で歩けなくなったら、元気のある人が荷物を持ってあげる。協力体制もしっかり決めていく。出発寸前で、宿泊を予定していた唐松岳山頂山荘が新型コロナウイルスの感染状況により営業停止となり、計画を大幅に変更した。しかし、この変更があとになってみると、良い結果につながった。

夜、山荘でなかなか寝付かれない中、一瞬雲が晴れ、満点の星空が広がる。みんな布団から起きだし、窓から外をのぞく。「みてみて! 北極星ってどれだ?」天文学で習った星をみんなで一生懸命探した。

7月16日午前10時40分 みんな揃って唐松岳頂上に立つ。標高2696メートル。

シュタイナー学校では野外活動も重視している。今回の登山では、大自然のなかで仲間と協力することや、エポック授業で学んだことを実際に見て、触れて、体験することができた。クラスのまとまりも一段アップしたように感じる。

Pickup Report

03

ミカエル祭に寄せて

高等部教員 中山 誠子

9月29日(水)ミカエル祭にて、4年生の「古事記劇」が行われました。

エネルギーが外気に満ち満ちていた夏が終わり、澄んだ空気にキリッとした冷気はいりこんできたらミカエルの季節。

ミカエルは、ガブリエル、ラファエルとともに、キリスト教にもユダヤ教、イスラム教にも現れる三大天使の一人です。9月29日がその祝日とされていますが、この時期のミカエルまつわる祝祭はシュタイナー学校に独特のものです。闇を通り抜けたり、狭い橋を渡ったりして、ミカエルの天秤に到達し、左右をつりあわせる課題に挑戦したり、竜退治の劇を演じたり、十文字の方向に綱引きをしたり、世界中の学校でさまざまに祝われます。竜退治の民話、神話は民族を超えて存在していますが、学園では3年生や4年生が「やまたのおろち」「聖ゲオルギウスの竜退治」「ミカエルの竜退治」などを劇で演じます。

ガブリエルが、導き、啓示を与えてくれる天使であるのに対して、ミカエルは人間に問いかける天使です。人間が未来への信頼を持ち、勇気を持って自らの意思で行動したことに、意味を与えてくれるのがミカエルなのです。学園では創立以来、学校を創立できたことを感謝し、未来を信頼して力を尽くしていく決意を新たに創立祭としての思いも込めて、ミカエル祭を全員で集まって祝ってきました。今年も子どもたちの劇から未来を信じる力をもらいました。私たち大人も、諦めたり、逃げ出したくなる自らのうちの竜を退治して、自分の意思で行動できる勇気を見出していきますように。



保護者インタビュー

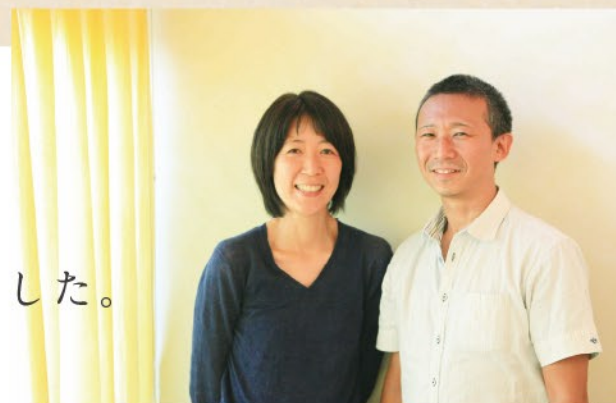
parent interview

vol.02

入学に消極的だった夫。 時間をかけて ゆっくりと気持ちを変化させました。

2年生保護者

畑中 秀夫さん・志寿さん



秀：秀夫さん
志：志寿さん

秀夫さんは、お子さんの進路についてどのように考えられていましたか？

秀：地元の公立小・中学校に進学すると漠然と考えていました。それ以外の選択肢を知らませんでした。

志寿さんからシュタイナー学校の話聞いて、どう思いましたか？

秀：息子の進学先にそういう選択肢もあるかもしれないと気づきました。ただ、自分が経験していない教育であり、イメージがつかめませんでした。子どもが問題にぶつかったとき、自分の経験をもとにアドバイスできないかもしれないと思いました。

秀夫さんは入学に対して消極的でした。

志：息子には、父母がともに納得してこの学園を選んだよと伝えなかったです。この学園は保護者も運営に関わるので、母親ひとりの頑張りでは通学し続けられないだろうと思い、なんとかわかってもらわなければ、と必死でした。しかし、直感で「この学校がいい」と感じたことを理論的に説明するのは難しかったです。

秀：入学の1年前に、妻から「シュタイナー教育を考える」(子安美知子著・学陽書房)という本を勧められました。エデュコレ(多様な教育の博覧会)に参加したとき「子ども一人ひとりに合った教育がある。教育には選択の自由があるべきだ」という言葉が腑に落ちました。しかし、「シュタイナー教育」という一つの枠の中に入ることで不自由を感じるのではないかという思いがありました。卒業後の進路についても不安でした。

シュタイナー教育を知っていく中で、気持ちや考え方にどんな変化がありましたか？

秀：入学説明会に参加したり書籍に触れたりする中で、シュタイナー教育にもっとも共感できたのは、「どんなに時代が変わっても、人間の成長段階は基本的に変わらない」という考え方です。また、「シュタイナー教育」という一つのブレない軸を持つことを肯定的に捉えるようになりました。そして、この先ぶつかるかもしれない様々な問題や障壁に対して家族一丸となって取り組むことは、どの学校を選択しても変わらないと考えるようになりました。1年かけてじっくりと進路について考え、自分とは違う道を息子が歩むことへの違和感を払拭できました。何よりも、妻の熱意が支えとなりました。

最終的にご夫婦そろって入学の意志が固まりました。秀夫さんが前向きになれたのは、なぜだと思いますか？

志：自分がいいと感じたことはなるべく言葉で伝えましたが、説得するようなことはしませんでした。説明会やイベントに参加して、夫自身の肌で感じてもらったことが良かったのではないのでしょうか。願書を書いたり、面接を受けたりするうちに意志が固まっていったように思います。夫婦間の話し合いだけでは、いつまでも平行線だったと思います。私の熱意はずっと続いたわけではなく、揺れ動いたときもありました。そんなときは、息子を見るようにしました。「この子をシュタイナー学校に通わせたい」と、原点に立ち返りました。

志：入学してからも、夫の考えは変わっていきました。保護者同士の関わりをとおして、学園の良さを感じてくれていると思います。なにより、実際に授業を受けて感動してキラキラした顔で語ってくれる息子を見て、入学して良かったと一緒に話せるようになりました。夫婦の形はそれぞれですが、説明会やイベントに色々参加して、実際に感じてみてほしいですね。気持ちが動く一つのきっかけになるかもしれません。



これまでの通常学童に加えて、昨年夏より
長期休暇学童が始まりました。利用された保護者の声を集めました。



入学して初めての夏休みに、長期休暇学童を利用しました。朝8時から、お盆も含め平日はほぼ毎日あるという充実ぶり！そして、季節感あふれる企画を学童員の方々が考えて下さったことにも感動。染め紙やおばけの折り紙づくり、スイカ割りまでありましたよ。[1年生保護者]

長期休暇中もいつもと変わらない学園の環境の中に子どもを預けることができ、共働きであるわが家は本当に助かっています。生活リズムが崩れることなく、また家の離れた友達とも遊べるので、とても充実した毎日を送ることができます。[2年生保護者]

1年生の冬休みと春休みは、祖母の家に娘を預けていました。長い休みなので、遊びに飽きてしまうこともあり心配でした。長期休暇学童が2年生の夏休みから始まり、とても助かりました。娘は友達と遊べるのが嬉しくて、休みの期間も楽しく過ごすことができました。これからも利用したいです。[3年生保護者]



うちはうち
教えて
日々のお弁当

うちのお弁当

料理上手でない私が
お弁当LIFEを楽しんでいるワケ

1年生保護者母

共 働きわが家は、0歳から保育園の給食のお世話になっていたの、子ども用のお弁当を作ったのは遠足の3回のみ。

料理上手ではない私にとって、12年間のお弁当作りはハードルが高い課題です。(食べる娘も試練かも...) また、わが家には、お弁当作りに役立つ炊飯器や電子レンジ、トースターなどの便利な家電はありません。趣味の片付けが高じて家電を処分してしまった自分に、ちょっぴり後悔なんてしました。

いざ入学してみると、お弁当のために特別なおかずを準備しなくても、毎日食べているものをお弁当箱に詰めれば良いことがわかりました。娘は、好きな野菜や果物を入れると、お弁当を残さず食べてくれます。お友だちのお弁当を見て、カレーや冷やし中華、寒天ゼリーが食べたいというときはリクエストに応えますが、基本的に、タンパク質1品と野菜3品の組み合わせ。午前のおやつ、15時のおやつがあるので、お昼のお弁当に全てを入れても良く、1日のトータルに必要な栄養が取れば大丈夫と気づき、気持ちが楽になりました。今は、娘のお弁当の残りで私のお弁当も作り、親子でお弁当LIFEを楽しんでいます。



こどもと食べたい 季節のレシピ



秋/冬

蓮根ハンバーグ

蓮根さえあればできる簡単メニュー

材料(2人分)

- 蓮根ひと節 100gくらい
- 水 少々
- 天然塩 少々



POINT

- 蓮根の水分量に合わせてお水の量を調整してください。
- 栄養の詰まった節の部分もすりおろして取り入れられます。

作り方

- 蓮根を皮ごとすりおろす。
- 小鍋の上で軽く絞る。
- 小鍋を火にかけて蓮根汁を練り上げる。
- ねっとりとなった③を半分くらい、すりおろした蓮根の方に戻す(残り半分はそのままお鍋)
- よく混ぜてお水を適量足し、ひき肉ハンバーグの種くらいのゆるさにしてお塩少々加える。
- 形を作って焼く。
- 残り半分の③にお水とお塩を適量加え、再び火にかけてかき混ぜ、全体にとろりとしたソースにする。(お好みの硬さまで水を入れる。入れすぎたらしばらく火にかけて練ってあれば適当なとろみになります。)ソースはお好みでお醤油や、ケチャップなどで味つけてください。お塩だけでも蓮根の旨みが効いて美味しいです。

2年生保護者 自然食カフェオーナー

新1年生追加募集

新入生・転入生
学園説明会のご案内

2022年1月8日(土) 【開催時間】9:30~12:30
【参加費】1,000円/1人

開催内容	シュタイナー教育の理念やカリキュラム、学園の運営・学費等についてご説明します。また、校舎・教室見学、願書の販売があります。
対象	●2022年度4月に入学をご希望の方 ●将来入学をお考えの方 ●転入をご検討の方(受け入れ可能学年:2022年4月時に新2年・新3年・新4年・新10年) ●シュタイナー教育に興味・関心をお持ちの方

詳細・お申込み・お問い合わせは愛知シュタイナー学園公式Webサイトをご覧ください。

ご寄付のお願い

どのように社会が変わろうともそれに対応し、生き抜いていける、しなやかで独創性のある若者を育てる活動に、どうぞお力添えをお願いいたします。

[認定NPO法人への寄付に対する税金優遇措置について]

認定NPO法人へ寄付をする行為は、納税と同じレベルで社会問題の解決に参加していることに該当すると認められ、所得税、法人税、相続税、地方税も、優遇措置が受けられます。学園発行の領収書を添付し、確定申告することで税制控除を受けられます。例えば10万円寄付すると、4割ほどが還付されます。

詳しくはHPをご覧ください

Webサイト・SNSで最新情報をご確認ください

隣接したQRコードを紙などで隠して読み取ってください。



ニュースレターについて

愛知県で唯一の全日制シュタイナー学校「愛知シュタイナー学園」による発行です。教員と保護者の協力のもと、執筆からデザインまでおこなっています。子どもたちの学びと教員のまなざし、保護者の想いを四季折々に綴ります。

認定NPO法人
愛知シュタイナー学園 初・中・高等部
〒470-0115 日進市折戸町笠寺山42-13
Tel & Fax: 0561-76-3713
HP: <http://aichi-steiner.org>
E-Mail: aichisteinerschool@nifty.com

アクセス

